田川議員（公明党）

平成 26 年 12 月 11 日
教 育 長 答 弁 実 録
（ 教 育 委 員 会 ）

（問）自尊感情の低い子供たちの増加について

２００３年にユニセフがＯＥＣＤの加盟国中１５歳に行った調査では，「孤独を感じている子供」の割合は，日本が最も高く約３０％で，平均の４倍である。

また，２００８年の日本青少年研究所による中・高校生に対する日・韓・米・中４カ国の国際比較調査では，「自分はダメな人間だと思う」と答えた日本の中学生は５６％もおり，自分に自信が持てない，自分が好きになれない，自尊感情の低い子供たちが増えている。これを中学校の先生に話しても危機感を感じていないようだが，私には最も本質的な今の教育の課題のように思える。

こうした子供たちが多いという現状について，率直にどのような感想を持っているのか，また，この課題に教育現場はどう立ち向かえばよいのか，併せて教育長に意見を伺う。

（答）

この調査結果につきましては，日本人特有の慎み深さや，謙虚で控えめであることが美徳とされている国民性の違いなど，様々な要因が影響しているものと受け止めております。

しかしながら，児童生徒が，自分はこういう人間になりたいといった自己をしっかりと確立し，自ら目標を立て，実現に向けて挑戦していくためには，自己を価値ある存在だと実感し，自分に自信が持てるよう，自尊感情を育成することが重要であると認識をしております。

そのためには，子供たちに，授業の中で，「やればできる」，「考えれば理解できた」という喜びや，係活動や生徒会活動などの中で，役割を果たした，やり遂げたという達成感を持たせるとともに，失敗を恐れず，何事にも果敢に挑戦することを大切にした教育活動の充実に取り組んでまいりたいと考えております。